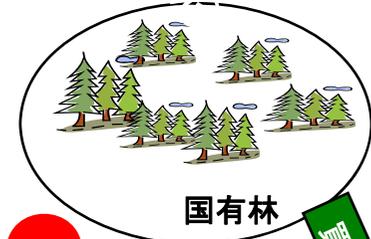
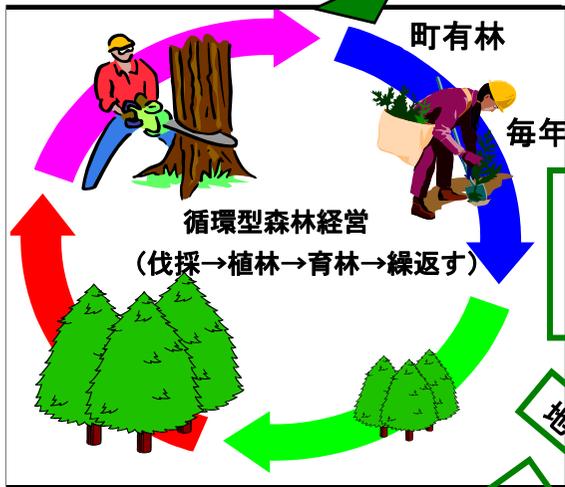


下川町の内発的発展実践モデル(1953年～現在ま)



- 昭和28年 国有林買受 1,221ha
- 昭和29年 台風15号(洞爺丸台風)被害
- 昭和35年 40～50haの伐採収穫の経営計画
- 平成6年～15年 国有林買受 1,902ha
- 町有林管理面積 4,470ha
(人工林:2,890ha、天然林:1,580ha)
- 町有林の蓄積 695千m³⇒約100万t-CO₂



地域経済波及
雇用機会創出
原木資源供給

循環型森林経営の確立

- 毎年50haの植林(適正管理) × 60年間
- ⇒ 継続的な森林整備
 - ⇒ 資源循環
 - ⇒ 雇用の場確保
 - ⇒ 木材資源の安定供給物

地球温暖化対策
カーボンオフセット(制度設計)

II

森林組合

- ⇒ 構造用集成材
- ⇒ 造作用集成材
- ⇒ 木炭・土壌改良材
- ⇒ 円柱材・燻煙材
- ⇒ もみの木
- ⇒ 林地残材



森林整備

III

- 森林組合雇用状況
- ⇒ 約70名(半数UIターン者)
- ⇒ 人材エントリー約10名



製材業

- ⇒ 住宅部材・梱包材等

協同組合

建設業

- ⇒ 林道・作業道整備



VI

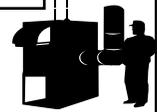
木質バイオマスエネルギー

- ⇒ 化石燃料～木質
- 五味温泉
- 幼児センター
- 農業ハウス



VII

吸収源・排出削減



森林セラピー

V



林業体験



下川町における「緑の経済と社会の変革」日本版グリーンニューディール政策実証提案

～環境モデル都市具現化～



環境モデル都市 — 次世代型「北の森林共生低炭素モデル社会」創造プロジェクト —

